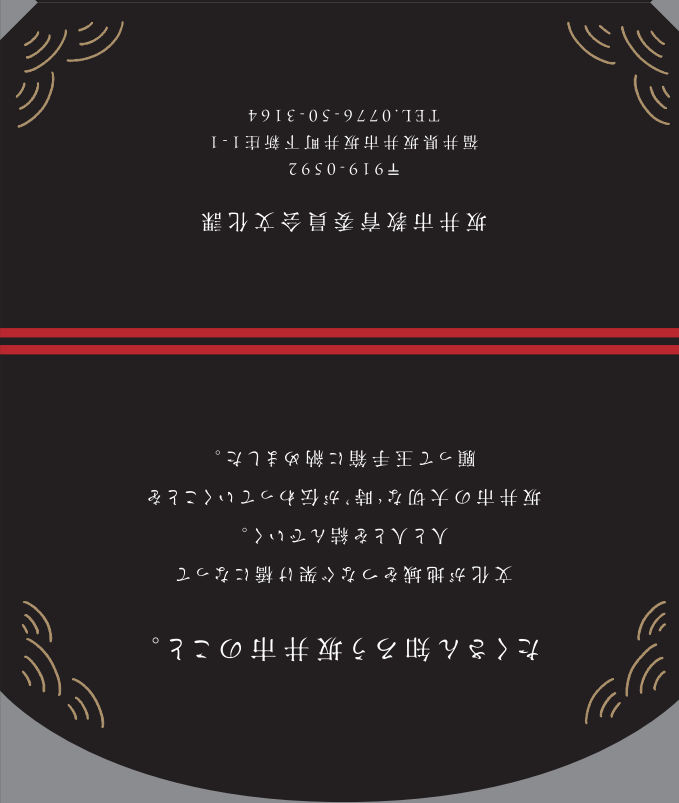




01. 雄島

越前海岸で最も大きな周囲約2キロメートルの無人島です。「神の島」とも呼ばれ、陸から繋がる朱色の橋は224メートルあります。



02. 大湊神社

古くは三保大明神と呼ばれ、航海・漁業の守護神として地域の人々から敬われています。雄島島内にある社殿は江戸時代に建てられました。



03. 雄島海女の素潜り漁と加工技術

雄島地域(米ヶ脇、安島、崎、梶)で行われる海女の素潜り漁は、ワカメやウニ、アワビ、サザエなどを採ります。ワカメやウニについては加工も行われています。



04. なんぼや踊り唄

毎年8月14・15日の安島地区の盆踊りで、笛や太鼓などを使わず、踊り手の手拍子と唄い手の唄に合わせて踊ることが特徴です。



05. 越前松島

小島が点在する風景が、宮城県の松島に似ていることから「越前松島」と呼ばれるようになりました。近くには洞窟があり、弁慶が通り抜けたという伝説があります。





06.大湊神社獅子頭 坂井市三国町安島23-15-1(大湊神社)

大湊神社では、毎年3月20・21日の両日に神幸祭(別称「おしし祭」)が行われます。その際、この獅子頭が神輿の上に乗せられ、神領とされる地域を巡行します。



07.大湊神社春季例大祭(雄島祭り)

坂井市三国町安島23-15-1(大湊神社)

毎年4月20日に行われる豊漁と漁業の安全を祈願する海の祭りです。船神輿・女神輿・子供神輿が安島や東尋坊を巡行します。海中を渡る神輿と橋に並ぶ大漁旗やこいのぼりは圧巻です。



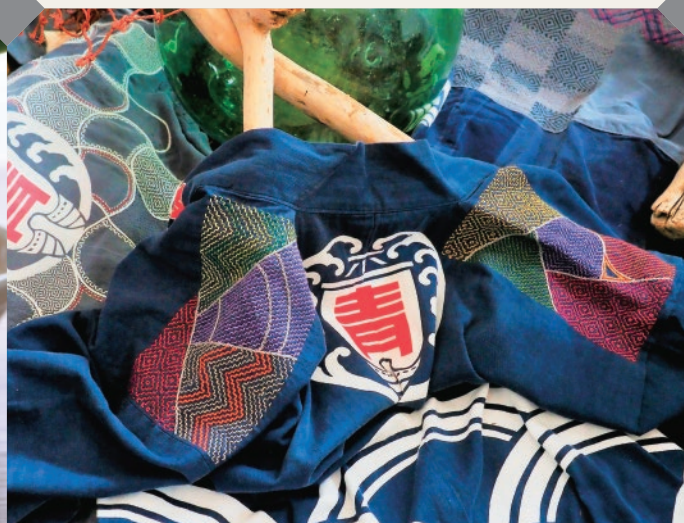
08.塩雲丹

海女が素潜りで採ったバフンウニを手作業で割り、塩漬けたものです。日本三大珍味ともいわれ、江戸時代後期の「日本山海名産図会」にも記載されています。



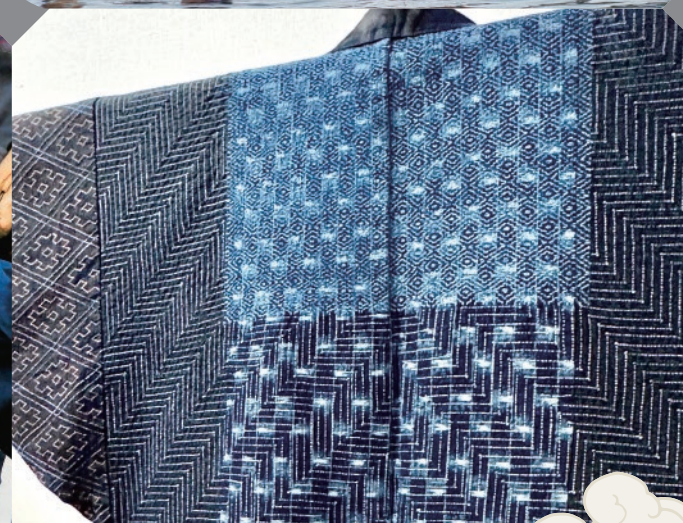
09.もみわかめ

4月末ごろから採れる新ワカメを天日干しにし、乾いたものを手で揉んで仕上げます。海の風味が香る一品で、ご飯のお供にお勧めです。



10.刺し子

着物の生地を丈夫にするための針仕事のことをいいます。幾何学模様の刺し子は、雄島地区特有で、安島モッコの会による復活・継承がはかられています。



11.モッコ ※写真は坂井市龍翔博物館蔵

刺し子を一面に施した着物を、雄島地区で「モッコ」と呼び、昭和時代初期ごろまで新築祝や葬式などで着用されました。現在、坂井市龍翔博物館で展示されています。



12.海女唄

三国町の米ヶ脇の海女たちに古くから伝わる唄で、祝い唄のような性格を持っています。江戸時代には福井藩主が見物したという記録も残っています。

